

第 20 回社会保障学校感想アンケート集計 (2020 年 9 月 5 日)

参加人数 会場参加者数 69 名 ZOOM 視聴参加 34 名 アンケート回収数 34 枚

【設問 1】 社会保障学校に参加された動機は何ですか (近いものに○印) *複数回答可

- 1、チラシを見て (7 人)
- 2、団体・組合から参加要請があったから (18 人)
- 3、知人・友人からの誘い(0 人)
- 4、関心のある内容だから (15 人)
- 5、講師が良いから (3 人)
- 6、 その他 3 人 (社保協会議 1 人、新かな 2 人)

【設問 2】 講演 (鈴木 静さん) について感想をお書きください。

① 講演内容はいかがでしたか

- 1、良かった (34 人)
- 2、良くなかった (1 人)
- 3、何とも言えない (0 人)

② 内容は理解できましたか

- 1、良く理解できた (21 人)
- 2、理解できた (10 人)
- 3、少し理解できた (3 人)
- 4、理解できなかった(0 人)
- 5、何とも言えない(0 人)

③ 感想をお書きください。

- ・基礎的な事でしたので特に新しく学ぶことはなかったが、改めて人権保障の原則に立ち返るきっかけになった。質問したのは、確かに先進国の事例を聞いてそれを日本にあてはめることは意味がないと思っている。スウェーデンやノルウェーの写真で示された、施設ではなく特別の住居を見ることでイメージがわくことがあるわけです。ずーと生活保護制度を世帯単位でなく個別単位にできないかと考えてきていたので何か参考になるものがないかと。勉強不足ですが法的な基礎などについても知ればと思っている。
- ・日本の社会保障制度に人権の視点がないということが非常に問題だと以前から感じていたので、鈴木先生の話で、私の感覚が正しかったと裏付けされてすっきりしました。運動団体も WHO の健康の定義や国際的な人権の視点を学び、人権保障の視点で社会保障の水準と現状との比較をすべきだと思います。障害者に関しては、家族支援が前提の制度設計で、共に生きるなどでの心の壁や助け合いの視点を強調することで、互助を広げて安上がりの制度をたもっています。他のものとの平等をうたった障害者権利条約の視点を運動体でも、もっと広げる必要があると感じました。
- ・講演とても分かりやすかった。3 つの報告も○。
- ・スウェーデンの老人ホームというか個別のアパートメントタイプの施設は今後日本でもできるのでしょうか？ またスウェーデンでは老人介護はすべてこのようなアパートメント方式なのか？を聞きたかった。

- ・もっと聴講したいくらいの分かりやすい内容でした。「人権」を社会保障と太く結びつける考え方を深めました。聴けて良かったです。やはり基本ですね。基本がしっかりしてこそブレない運動につながるなど、強く思いました。
- ・朝日訴訟を知らなかったので、朝日茂さんの言葉「権利は闘うものの手にある」という言葉に力をもらいました。コロナに対する恐れから、知らずに差別的態度や意識を持っていたことに気づかされた。北欧の福祉政策を聞くたびに税金の使い方、考え方の日本との違いをまざまざと感じる。日本ではなぜそれができないのか？人権に対する考え方、意識の違いが大きく反映されている。
- ・人権保障のことについて、考えさせられた。
- ・「人権ということが揺らいでいる岐路に立たされている」という、状況をなんとしても変えていかねばという思いをいっそう強くしました。私たちと目線が同じものを感じました。こういう研究者がおられることを力強く思います。
- ・高齢分野、特にスウェーデンの事例報告がよかった。
- ・日常の暮らしの中で人権の考え方があまりにも弱い。他人を批判したり、小さなことで争ったり、他者を思いやるゆとりが失われていると感じる一方で支えあう人も増えている。制度的遅れを国際基準に合わせることを運動の主流にすることが大事だと思いました。ともすれば眼先優先になりがち」、基本を忘れずあきらめず運動をしていかなければと思いました。
- ・現役医師によるALS委託殺人事件は医師の職業倫理に反する事件なのでニュースにもなったが、コロナの特別扱いでオンライン診療の初診時からの非対面が許されて居り、コロナ後も延伸する様、政財界から求められています。昭和中期、睡眠薬自殺の原因となったベンゾジアゼピン系やバルビツール系睡眠薬の大量摂取を防ぐ目的から、新しい導入剤系の薬剤へシフトしてきた歴史がありますが、初診からオンライン診療を許すと、こういった薬剤による自殺ほう助等が増加しても、表面化されなくなる可能性があります。ブラジルでは国民の生命・安全よりも経済を優先する政策の結果、大統領自身も罹患し、国民の100人に1名以上が罹り、(全世界の1/6, 400万人) 死亡者も12万人(全世界の1/7、人口の千人に4人)となっています。日本も経済優先に向かっていて、生命安全が軽視される方向になっています。
- ・生存権の「最低限度の生活」に引っ張られて、本来必要とされるはずの生活保障のレベルを下回ることがあってはならない。必要とする人に適切なサービス、支援が行き届く世の中にしていかないと。差別思想の根絶は容易ではなく、大なり小なりそうした思想の持ち主は一

定数いると思うが、2度とやまゆり園のような痛ましい事件を起こさない為にも社会全体の問題として捉え、国民ひとりひとりが向き合っていないといけない。人は必ず年をとるし、病気や事故でいつ障害を抱えるかもしれないと思いは弱者に寄り添えるのではないかと思う。

- ・生存権裁判の名古屋判決のひどさや、日常的に国保や後期高齢者医療、介護保険などの行政窓口、関係機関（医療、薬局、介護事業所、地域包括など）で「金が先」＝保険料納めない（一部負担金、利用料）と給付しない＝ことがあたりまえのように前提とされている。そういう扱いを受けている中で我々が（当事者・支援者）「当たり前の“人権”として」給付や利用保障を勝ち取る支援を行うことはとても困難です。国連の到達点や日本国憲法の人権保障を標準とするような社会保障に考えを改めさせないといけない。決められた保険料、一部負担金を負担するのは当然とし、「原いなければ受けられない」とするのは、優生思想としても相乗して経済的にも差別を拡大してしまう。人権としての社会保障の確立にとって新自由主義は相いれないもので、時代を2回も遅れているようなものだ。
- ・スウェーデンやノルウェーは進んでいるとは思ってはいたが、「人間らしく暮らす」ためにできるか否ではなく環境を整えられていることに驚いた。料金は？都市部だったらもっと充実しているのだろうか等考えると、自分たちの周りにそんな所は高級老人マンションでないとないだろうなと思った。兄がいるサ高住・・・トイレと洗面台はあるがバスはない。私が数年前に勤めていた障害者のグループホームではベッドと机しかなかった。「人権」の視点、「人間らしく」をしっかりと自分の中に持っていないと流され踊らされてしまうと思った。学ぶことは大事ですね。
- ・人権保障を実質化することが非常に重要な事だと感じた。人権と聞くとキレイごとでないという意味がない、しかしこの理念としての共有の度合いが最低限ですら行われていないことが人権保障の実質化の心的障害になっていると感じた。
- ・今の日本は人権意識のとても薄い国であることを実感した。自分も含めてですが社会の風向き、マスメディアの風潮に流され、きちんと人権に向き合い考えてないと感じる。先生のお人柄にも触れ非常に感銘を受けました。問題意識をもって考え続けていきます。
- ・これまでの経済政策、コロナ禍で貧富拡大、格差が大きな問題として続いている。「貧」をさらに貧しくしているのは社会保障改悪であると感じたが、国連で「権利保障アプローチ」や政策概要は興味深く聞くことができた。「囑託殺人」「尊厳死」については、今後も考える視点をいただきました。

- ・津久井やまゆり園殺傷事件と言う神奈川県民にとっては深く印象に残っている事件を取り上げた内容で主に海外や先進国との比較されていた。今回の話で特に印象に残ったものは海外、先進国（スウェーデン）での老人ホームの在り方についてです。日本では自分たちの生活スペースには居住と言う感覚がない。ベッド、タンスのみの簡単なものに対し、海外、先進国では居住に必要な風呂、トイレ、キッチンといった衣食住を考えた個人の家という感覚があるということに驚いた。
- ・政府は人権宣言、人権規約、特に高齢者の権利は無視し、政策の後退を全体として進めている。その為に本日の学校が開かれてよかった。鈴木先生の講義の内容をこれから地域の学習会に活かしていければと思います。ウェブ会議良かったです。
- ・権利としての社会保障という考え方は大学で学びましたが、制度化することが大事だと改めて学びました。そうゆう点では社会保障運動の重要性を強調しなければならないとおもいました。権利侵害に対してどう戦うか。実態が見えなくなっているものを可視化することが大切だと学びました。
- ・息子に障害があり、津久井やまゆり園事件についてのことも知りたくて参加しました。「津久井やまゆり園利用者支援検証委員会中間報告」を見ることができ、参加して良かったです。国連、人権の事が少し分かり勉強になりました。
- ・人権という幅広い観点からの講義であった。国連の権利保障アプローチにある様に権利侵害を受けやすい人達（障害者、高齢者、女性など）を徹底的に守るという点もちろん大事なのであるが、津久井やまゆり園殺傷事件そのものに少し触れてほしかったし、深めてほしかった。
- ・人権侵害されやすい立場の人たちを守るための制度が重要なのはわかりました。若者の権利はどうでしょうか、健常者の人権自体がないがしろのされている社会がやまゆり園の事件の根底にある様にもおもいました。
- ・「人権としての社会保障」というフレーズは他にも適用できる。例えば「人権としての被災者住宅」など。あらゆる場面で人権保障としてどうなのかという観点をもって評価し改善点をさがっていくことが求められるのではないかと思った。
- ・今回初めて講演で先生の話聞いて寺子屋を思い出しました。私も81歳になる国の方でもしっかり政策をやってもらい、憲法にそった政治を作って貰いたいです。

- ・コロナ禍において、人権の在り方を強く感じていました。国連の取り組みの事を知らなかったので大変参考になりました。
- ・津久井やまゆり園事件についてももう少し時間を割いていただきたかったです。
- ・人権侵害を含めて改めて考えなおすことができました。
- ・日本国政府は憲法逆にとらえている中で、人権宣言や人権規約はほとんど生かされていない。

【設問 3】 社会保障学校についての感想をお書きください。

① 社会保障学校の運営について

1、良かった (31人) 2、良くなかった (0人) 3、何とも言えない (1名)

② その他お気づきの点やご要望 (今後の企画などを含めて) があればお書き下さい

- ・時間が短いので深められなかった。宣伝チラシなどで見て津久井やまゆり園事件についてももう少し深められるかと期待した。
- ・ZOOMで参加しました。先生の講義はZOOMで視聴刷ることができましたが、そちらでの報告は画面がなく、「社保協」の表示だけだったのが残念です。いい企画ありがとうございました。コロナが長引きそうなので、今回のようなZOOM参加の企画も続けていただけると助かります。また、先生の講義に大変感銘したことと、時間終了後にちゃんと返事をして下さったことに感謝しますとお伝えいただけると幸いです。
- ・現在日本は右傾化が進みより優生思想が進んでいく可能性が高い。自民党にそう言った議員がいるのでそういった議員を落としていかなければならないと思う。保守に優生思想はあり得ないと思っているから。
- ・ZOOMで参加できると知らなかったのが残念。他にも見てもらいたい仲間がいたので知っていれば一緒に見られたと思う。鈴木先生は分かりやすい言葉でゆっくり話して下さったのでとても聞きやすかった。
- ・オンラインリモート講演については否定的な考えでいたがこのようなやり方も良いのではと思いました。

- ・リモートでの学習会も良かったのではないかと、この方法でやるとすればもっと学習の機会が増えるのではないかと思います。
- ・今回のような進め方で、次回からも行ったらよいと思います。
- ・リモートに馴れなくて、高齢者には大変です。一度経験したので次回は大丈夫だと思います。
- ・神奈川県下では、国保の滞納世帯に対し、強制差し押さえが増加しています。生活保護水準でも認められている就労に必要な軽自動車でも差し押さえられる事例も出ています。生保の水際作戦もそうですが、あまりにも社会保障が軽視されていると思います。したがって、国保等の差し押さえの実態とその背景の勉強会をお願いします。
- ・菅官房長官が次期総理になりそうだ、出馬会見で「自助、共助、公助」をフリップで掲げていた。社会保障をゆがめて壊しながら、安倍政権を踏襲しようと言う事だと思う。こんなインチキを堂々と言い放つ政治を一日も早く終わらせないといけないと思いました。
- ・ZOOMでもやっているのは良いなと思った。年金制度、生活保護、保険等新聞にも出ているがスルーしてしまうことが多かったので、もっと真剣に考えなくてはならないと思った。
- ・タイムスケジュールを守っていたことは良かった。
- ・3者からの取り組み報告もとても参考になりました。改めて社会保障としての政策の乏しさを実感した。最後の講師の先生からの助言いろんな立場の人で実態を共有することの大切さを心に止め自分にできる事を考えていきたい、実行もしたいと思いました。
- ・講師・取り組み報告の組み立てが良かった。
- ・回数を増やしたらどうか（地区も分けて）年に4~5回、高齢者が多くなっているの。
- ・初めてZOOMでの講演会に参加しました。良かったです。コロナ禍の中、色々と大変で気をつかうことばかりですが。開催ありがとうございました。
- ・時間があれば再度講演をお願いします。

- ・オンラインでの講演ははじめてだったが、普通に聞くことができた。今後もオンラインを活用し、多様な講師の講演を期待します。
- ・県内の活動状況を知る場、交流する場として大切だと思います。時間的配分を増やしても良いのでは。
- ・会場は建設プラザのように広い会場が良いと思います。コロナ禍の時こそ。

<団体別参加者数>

団体名	参加者			前年	団体名	参加者			前年
	会場	ZOOM	計			会場	ZOOM	計	
民医連	2	8	10	1	ユーコープ労組	2	1	3	
保険医協会	4		4	4	福保労				1
神商連				8	年金者組合	3		3	4
新婦人	1		1	2	横浜労連	1		1	1
神生連	3		3	4	川崎労連	1		1	
県高連		1	1		湘南労連				1
生協県連		5	5	1	横浜市社保協	2		2	2
障神奈連	1	1	2		川崎市社保協	2	1	3	2
視覚障害者を守る会	2		2		相模原市社保協	1		1	1
きょうさ連	1		1		横須賀市社保協	1		1	1
横浜障害児者の家族会		1	1		茅ヶ崎社保協				1
消費税なくす会				1	寒川町社保協	1		1	1
自治体問題研究所	1		1		西湘地域社保協				1
横浜市従退職者会	1		1	1	三浦の医療と福祉を考える会		1	1	
県職労退職者こだま会		1	1		中央社保協	1	1	2	
学習協	1		1		県社保協	2		2	2
かながわ人権フォーラム	1		1		愛媛のちの砦裁判		1	1	
神奈川労連	2	2	4		議員	1	1	2	2
建設労連	23		23	13	講師		1	1	1
自治労連	2		2	1	報道	1		1	1
医労連		2	2		個人	5	8	13	1
					合計（32組織）	69	34	103	59